

このスポット・おすすめ!

世界 39 カ国で出会ったワールドワイドな料理と「トミオフクダ」農園の生豆を使ったコーヒー
VIVA LA COFFEE
(ヴィヴァラコーヒー)



ランチは3本立てプラスα
近々「夜カフェ」も営業予定
ブラジルをはじめ世界各地の
おいしい料理と、自家焙煎した
「シングルオリジンコーヒー」が
味わえるお店です。
オーナーの山田智之さん・ユキ
さん夫妻は、「将来カフェを開
く」を目標に2016年から2年
間かけて世界39カ国を訪ね歩き
行く先々で出会った料理の技法を
体得。奥さまの出身地であるブラ
ジルでは、ブランド豆としても名
高い伯父の「トミオフクダ」氏の農
園でみっちり働き、コーヒーづく
りのすべてのプロセスを学びまし
た。帰沖後は少しずつ開店の準備
を進め、読谷村大湾の外国人住宅
街で理想の物件と出会い、今年7
月に念願の夢をかなえました。
ランチメニューは現在、ブラジ
ル人のソウルフルド「フレイ
ジョン」、山田さんが「世界一おい
しかった!」と絶賛するブラジルの
「ムケッカ」、タイの「グリーンカ
レ」の3本立て。これに黒板メ
ニューでもう一カ国の料理が加わ
り、毎日4種類の味が楽しめます。
自慢のコーヒーはもちろんな「ト
ミオフクダ」氏の農園から仕入れ
た生豆を使用。爽やかでフルー
ティな「イエローブルボン」
どしりとコク深い「ドライオン
ツリー」の2種類を用意し、店内
で自家焙煎して提供しています。
「料理は地産地消を意識して、読谷
村産の野菜なども織り交ぜていま
す。フードマイレージを通じて世界
を旅する感覚で、ぜひ気軽に遊びに
来て下さい」と山田さん。近いうち
には「夜カフェ」の営業を予定して
おり、モーニングを含めれば朝から
夜まで、ワールドワイドな味が楽し
めるようになっています。

住所：読谷村大湾 662 D-201
電話：098-953-8728
時間：9:00～17:30
(モーニング～11:30・ランチ11:30～ラスト)
休み：水曜日
駐車：あり
【おもなメニュー】
●ランチ
・フレイジョン(ブラジル).....1,100円
・ムケッカ(ブラジル).....1,380円
・グリーンカレー(タイ).....1,000円
●ドリンク～テイクアウト OK～
・トミオフクダ イエローブルボン.....500円
・トミオフクダ ドライオンツリー.....530円
・水出しアイスコーヒー(1日10杯限定).....550円



なぞなぞに **読者** 答えて
🍀 プレゼント 🍀

このスポット・おすすめコーナーで紹介の
『VIVA LA COFFEE』で使える

2,000円分
お食事券

3
名様

負けないで
チャレンジ



Q なぞなぞ
だれにも負けない
カレーって
なんだ?

10月号当選者 前号の答え(辞典)

- ★島袋 桂子さん(金武町在住)
- ★比嘉 里美さん(読谷村在住)
- ★喜世川 直子さん(嘉手納町在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

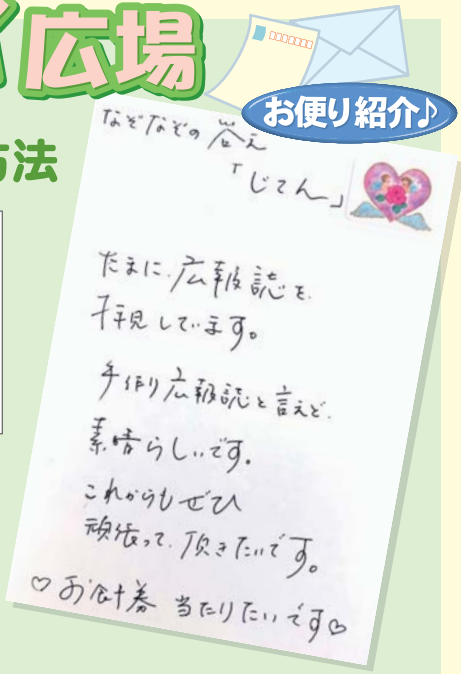
| | |
|--------------------------------|--------------|
| 切手 | はがき |
| | 904-0303 |
| 読谷村字伊良皆237-1 ウインズ 『広報誌係』 | |
| ①住所 ②氏名 ③年齢 ④職業 ⑤電話番号 | ⑥ なぞなぞの答え |
| 裏 | ⑦ ご意見 ご感想 |

応募者の中から抽選で、
読者プレゼントを進呈致します。
どしどしご応募下さい!

締め切り

2019年11月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.183)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



Fresh ウインズ

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



今月の歳時記

11月1日(金)～

11月2日(土)・3日(日)

11月9日(土)・10日(日)

11月23日(土)・24日(日)

パティオイルミネーション

会場・開催地/読谷村・ホテル日航アリビラ

第14回 読谷やちむんと工芸市

会場・開催地/読谷村・Gala青い海

第31回「ツール・ド・おきなわ2019」大会

会場・開催地/名護市21世紀の森体育館 [コース: 沖縄県北部一帯]

沖縄国際カーニバル2019

会場・開催地/沖縄市・コザ・ゲート通り周辺、ミュージックタウン音楽広場

そろそろ台風シーズンも一段落したでしょう
か。沖縄の短い秋は、ミーニシ(冬の北風)が吹
き始めるまでの準備期間。街では少しずつライ
トアップが始まり、心温まるひとときを演出して
くれます。秋にはスポーツ、芸術、
食欲も付きもの。グルメ情報
は毎月の「おすすめスポット」
をぜひ参考にして下さい。



↑那覇市 役場 嘉手納町 名嘉病院 比嘉川 ウインズ エネオス 読谷高校 ファミリー マート おきなわ 養蜂舎 道の駅 読谷 名護市→

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00～18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい!

☎0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索



Smile Vision!

読谷村の自然豊かなロケーションを生かした、手作り感満載の野外ライブ
家族で耳ぐすい、命ぐすい。「てんてんあしびコンサート」開催秘話



■今年9月28日に読谷村のむら咲むらで開かれた第3回てんてんあしびコンサート。自然の夏空を舞台背景にミュージシャンが演奏し、芝生の原っぱが観客席に。音響設備は當山さん個人の器材を使用するなど、手作り感満載です

河口恭吾、でいご娘ら県内外6組のアーティストが参加し、9月28日に行われた「てんてんあしびコンサート」。読谷村内の有志が中心となって始めた手作りのイベントも今年で3年目を迎え、恒例の地域音楽フェスとして徐々に定着してきました。実行委員の一人である當山猛さんを訪ね、コンサートの趣旨やそもそものきっかけ、今後の展望などを聞きました。



実行委員 當山猛さん

忙しい日常をちよつと離れて音楽と景色を家族で共有

コンサートの一歩の主役は、読谷村が誇る自然豊かなロケーション。第1回目は崖上から大海原を望む楚辺地区の民家大湾邸、昨年は長浜地区運動広場、そして今年はむら咲むら内特設広場が会



■当日の進行役も出店の手配も、ロゴや看板の制作もすべて実行委員で手分けして担当

場でした。開催場所は毎年「てんてん（転々）」と変われど、3回すべてに共通しているのが、大がかりな舞台セットや音響設備は極力抑えてあるがままの自然環境を最大限に生かし、その時その場所に合った音楽を、演者と観客が一緒になって楽しめるプログラムになっていること。夕日の時間帯であれば、美しいサンセットが楽曲を引き立てる絶好の背景となり、日が暮れた後は月夜に合わせた選曲が、心地良い感覚となって耳にも心にも染み渡ります。

実行委員の一人である當山猛さんによると、コンサートの大きなコンセプトは「家族で耳ぐすい、命ぐすいする日」。おじいもおばあも、その孫や小さな子どもたちも、子どもを見守るお父さんもお母さんも、この日だけは忙しい日常からちよつと離れて、「すてきな音楽と景色を全員で共有する時間をつくってほしいと願い、企画・開催しています」。

「てんてん」というタイトルは、三線の音色を表すときによく使われる「てんとうてん」の擬音から着想を得ました。読谷村はご存じ、三線の

祖といわれる赤犬子の生誕地。當山さん自身も琉球古典芸能をたしなんでいるため自然とこの言葉が思い浮かび、語呂にちなんで毎年「転々」と開催地を変えることにしました。



■夕涼みをしながら思い思いの場所・スタイルで音楽を満喫。次回は春シーズの開催を予定

と面識があり、「移住経験もある大好きな読谷村へ恩返しをしたい」と常々聞いていたことから、野外ライブのプランを提案。そしてせっかく開くなら、「おじいおばあ世代が楽しめると同時に、村の子どもたちにとって強く記憶に残るような内容にしたい」とも考えました。

「私自身も子ども時分から、村内・地区内のさまざまな催しを通じて、全国各地の自治体と交流させてもらいましたから。そろそろ世代交代して、今度は私たちの世代が村の子どもたちに経験を積ませる番でしょう。40歳になれば皆それなりにキャリアはあるし、同級生だけで一つのイベントを開ける人材はそろうので」。

出演者の選定およびブックイングは當山さんの担当です。過去3回の皆勤賞は、開催のきっかけをつくってくれた河口恭吾さんと、読谷村出身のでいご娘の皆さん。他には県外海外こだわらずに「これまで発表した楽曲や活動内容がコンサートの趣旨に合致していて、実力がある」と目利きしたミュージシャンを招待し、さらに地元の子どもたちが発表する場も設けています。

また会場ににぎやかさを添える出店も委員の手作り



■河口恭吾さんの演奏に合わせてLet's dance♪
楽しんでいる子どもたちの姿はお祭りの花

開催地は毎年「遠足」して決定 地域密着で息の長いイベントを目指す

毎年の企画はロケーション探しからスタートします。當山さんをはじめ実行委員が集まり村内を「遠足」して、「こんな場所でライブを開いたら気持ちいいだろうな」という候補地を選んでいきます。今はまだ第3回目を

終えたばかりで「大きなトラブルもなく一安心」している段階ですが、そろそろ次回開催に向けた準備が始まります。「これまでは夏の時期ばかりだったので、今度は春先に開くことを検討しています。ただし来春だと間隔が詰まってしまうため、もうワンシーズン先延ばしにするかもしれません」。

また数年後にはどこかのタイミングで、過去の開催地の再訪を始めることも計画しており、「皆でコッコツと力を合わせて継続し、私たち同級生の手を離れて次世代にバトンタッチできるくらい、息の長いイベントにしていきたいですね」。

回を重ねるごとに委員同士の連携が深まり、段取りも当日の運営もスムーズになせるようになってきました。が、「私たちが掲げるコンセプトを、会場に来られた方がもつと自然に感じられるようにするにはどうすればいいか、まだまだ手探りの状態です」。昨年は企業・団体からも協賛を募り、規模を拡大して動員数アップを図ったのに対し、今年は協賛には頼らず、アットホームな手作りがもつとたくさん訪れ、大人と一緒に楽しめるような実



■毎年のコンサートの開催が、當山さんら実行委員の皆さんにとってはいわば「同窓会」。当日は自分たちも観客の一人になって盛り上がっています